

「道徳」という根が弱れば、「経済」という花は咲かない

道徳心の喪失が経済低迷の要因



中桐 万里子

令和6年能登半島地震で犠牲となられた方々のご冥福を謹んでお祈り申し上げますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興を祈念いたします。

さて今回は、中桐万里子さんとのお話です。10年振りに二度目となります。

中桐 よろしくお願いたします。

島 日本の2023年の名目GDP(米ドル建て)がドイツに抜かれ、世界第4位に転落しました。1968年に日本のGDPが当時の西ドイツを上回り、以降、世界第2位の経済大国としての地位を長らく保ってきました。

中桐 しかし、まだ記憶に新しいところですが、2010年に中国に抜かれ第3位に後退し、そして2023年には4位に。日本の円安、ドイツの物価上昇が背景にあるようですが、根本的には長年にわたる日本経済の低迷が原因でしょうか。

島 島さんのように憂える方はたくさんいらっしゃると思

います。

「二つの国が滅びるのは、戦争によってではない。天変地異でもなければ、経済破綻によってもない。国民の道徳心が失われた時にその国は滅びる」と指摘しています。これは、今の日本に十分当てはまるのではないかと私は危惧しています。

二宮尊徳は、「道徳なき経済は犯罪である」と言っています。道徳にふれている点でトインビーと尊徳の言葉は重なっており、しかも、尊徳は人づくりのプロだと私は感じています。

企業の経営資源は人物、金、情報とよく言われていますが、これらを使うのは結局が、この人であり、正しい人間力の追求が不可欠です。二宮尊徳の功績や人となりの中から、道徳をキーワードに人づくりの参考になる

お話をお聞かせ願えばと思います。

中桐 かしこまりました。「尊徳」は50代後半になってから使っていた名乗りで、それ以前は「金次郎」と自ら記していましたので、私からは「金次郎」と呼ばせていただきます。まず金次郎の生い立ちについて説明させてください。

島 お願いします。

中桐 金次郎は1787(天明7)年に相模国栢山村、現在の神奈川県小田原市の農家に生まれました。史料によれば江戸時代を生きた人物なのに、身長が182センチ、体重が94キロあり、現代でも大柄といえる偉丈夫だったようです。70歳という当時としては長生の人生を送り、その大半を農業に捧げ、徹底した実践主義行動主義を貫きました。

当時の農業は大変です。天明の大飢饉(1782)、1788年、天保の大飢饉(1833、1837)年に代表される冷害と大凶作が続いたからです。どんなに努力したって、うまくい

ない。多くの農民が困窮し、足が止まってしまう時代の中で、彼は一步一歩前に進みます。そして、60以上の農村を再興することに成功しました。

島 二宮金次郎と言え、薪を背負って歩きながら本を読む少年時代の姿ですね。その昔、多くの小学校に銅像がありまして。手にしているのは、中国古典の四書五經の一つである「大学」と言われていますね。

中桐 金次郎は10代半ばで両親を相次いで亡くし、それから伯父の家に身を寄せました。二宮家はもともと裕福だったこともあり、金次郎の父・利右衛門は学問を一生懸命にしました人物でした。その学びの影響もあり、お金に困って相談に来た人に次々とお金を貸すなどの救済を実践し、「栢山の善人」とも呼ばれていました。でも、貸したお金は返ってこず、持っていた田畑は度重なる川の氾濫で荒れ果て、隣りに家は貧しさのどん底に陥ります。金次郎は両親の死後、16歳の時には無一文になり、やむなく、父の形見である本を持って伯父・萬兵衛の家につかかっている

わけです。銅像の多くは、その頃の姿だと思われま

るほど。

中桐 萬兵衛は、弟の利右衛門とは違って、農家がむやみに学問にのめり込むのは危険だという考えの人でした。金次郎が夜、明かりを灯して勉強していると、伯父さんから油がもったいないと厳しく叱られたエピソードが有名です。そこで金次郎は菜の花の種をまき、収穫した菜種を夜の照明に使いました。

菜種のほかに、捨て苗から一俵分の米を栽培したとも言われています。

中桐 萬兵衛は意地悪おじさんのように描かれることが多いのですが、菜種や稲を育てる土地を留意することが多いのは陰で金次郎をバックアップし、万兵衛には農業は実践であり、学問や理想論以前にまず、一粒の種からしっかりと生み出せる現実的な実行力を金次郎に身につかせたいという切なる願いがありました。後の実践者としての金次郎は、この伯父の教育の賜物とも言えます。

正門をよく見ると、二つの門柱の上部を結ぶように鉄製のアーチが架かっています。道徳と経済はパラパラではなく、二つは必ずつながっていることを象徴しています。経済があつての道徳だし、道徳があつての経済だし。

中桐 道徳は、今で言えば重要な経営資源ですね。

島 ええ、もう筆頭です。経済は田んぼを耕す、鋤を作るといった人間の営み、物を生み出す創造的な生産活動や行動と直結するものです。動機やモチベーション、スタートとなる人間の活力が必要で、金次郎はその力を心田という言葉で表現しました。これは、花と根と同じ関係です。

島 花と根ですか。

中桐 金次郎の言う心田・道徳は、咲く花の根この部分です。根は土の下にありますから、目には見えません。

島 さて、花は経済行動ですね。

中桐 そうです。花という経済が元氣だからです。逆に言えば、花が枯れてくるのは、根っこが弱っているからだ

と金次郎は言っています。

島 心は本来、目には見えないものですけど、例えば玄関で靴が揃えられていない、スリッパが八の字になっているなど、実ははっきりと目に映ります。

中桐 同感です。金次郎は、倉庫と

二宮金次郎(尊徳)七代目子孫/親子をつなぐ学びのスペース「リレイト」代表

中桐万里子氏

1月1日午後4時10分、能登半島を震源とするマグニチュード7.6、最大震度7の地震が石川、富山を襲いました。揺れや津波が200人を超える人命を奪い、石川での住家被害は7万4000戸以上に及びました。多くの被災者が今なお、つらい避難生活を強いられており、一日も早い復旧・復興を願うばかりです。

今回対談をお願いしたのは、二宮尊徳(金次郎)の子孫である中桐万里子さんです。ご承知の方も少なくないと思いますが、尊徳は江戸後期に活躍した農政家で、飢饉などで荒廃した農村、貧窮に苦しむ農家の再興救済に尽力しました。本紙「報徳」の紙名も、彼が道徳と経済の融和を説いた経済思想である「報徳思想」にちなんでいます。

多発する自然災害、コロナ禍、極端な円安、日本経済の長期低迷など、近年わが国にふりかかる困難は枚挙にいとまがないほどで、実は尊徳が生きた時代とも重なります。中桐さんから彼が課題をどう紐解き、解決に導いたのかをお聞きし、混迷の時代を生きていくためのヒントを探ります。



中桐 万里子

先ほどふれた「経済なき道徳は癡言である」という強い口調の表現は、少年期のそうした生い立ちが深く関係しているんですね。

島 人間は精神論では生きられない

中桐 金次郎は以後、廃田の復旧や耕作に努め、20歳になって以降は、手放した田畑を次々に買い戻し、32歳で、村で2番目の大地主になりました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は大地主になりました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。

金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。金次郎は耕作に向きました。